

## 2020年大分市議会臨時議会・反対討論

2020年8月 6日(木)

21番、斎藤由美子です。私は、日本共産党議員団を代表して、議第90号 低速電動バスの購入について反対討論を行います。

この議案は、昨年度から実施されたグリーンスローモビリティ事業拡充のために、3,183万8,543円で、新たに低速電動バスを購入しようとするものです。

これは、自動運転が可能な電動バスを、野津原地区に加え佐賀関地域でも運行しようとするのですが、新型コロナウイルス感染症は今も拡大を続けており、いくら窓がない車両とはいえ、少人数で乗り合わせるバスの運行がいま本当に拡充すべき事業と言えるでしょうか。

市民の足を確保するといいますが、グリーンスローモビリティの名のごとく、時速20キロメートル以上出すことができない車両です。一般道に出れば、間違いなく渋滞を引き起こし、トラブルのもとになりかねません。

高齢化や過疎化で、公共交通の役割が「生活の足」として重視される中、市民が必要としているのは、日常生活の利便性を向上させるための、しっかりとした交通対策事業です。13人乗りの低速走行バスの運行では、公共交通対策として市民の共通理解が得られるとは思えません。

この間、同事業の反対討論で申し上げてきた通り、自動運転の安全性もまだ確立されているとは言えません。公道への導入は拙速であり、税金を使っての拡充に賛成することはできません。

先の議会で私は、今回のコロナ禍にあって、市民の命と暮らしを守ることを最優先に、すでに予算化された事業であっても執行を見直し、予算の組み換えを行うよう求めました。それにも関わらず、更なる感染拡大が懸念される今、新たに低速バス購入の契約を進め、事業を拡充する点も全く理解できません。そもそも事業の見直しは、予算の大小ではなく、真に必要かどうかが基準であり、あわせて感染拡大防止の観点で考えるべきです。

低速バスの追加購入は、中止すべきです。

以上の理由から、議第90号 低速電動バスの購入について反対いたします。